

KEN-NAN LEGEND RUNNERS CHRONICLE 2018-2022

KEN-NAN LEGEND RUNNERS -
A MARATHON SERIES RAN BY IWATE KEN-NAN SHINKOKYOKU

日本で最も愛された いわて県南の マラソンシリーズ

その軌跡と舞台裏

「参加者のライフスタイルの一部となる
そんなブランドをつくっていこう」

全国から累計約3500人のランナーが登録

岩手県南との絆を深めた5年間



IWATE
KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS 8
8 Races / Southern Iwate / 365 Days

KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS 10
10 Races / Southern Iwate + Taiwan / 365 Days

KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS 12
12 Races / Southern Iwate + Taiwan / 365 Days

IWATE
KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS 17
SEASON 4 / 2021 / 17 POINTS - GOD

IWATE KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS
FINAL
2022
SEASON
FINAL SEASON

WHAT IS
KEN-NAN LEGEND RUNNERS?

いわて県南レジェンドランナーズ
今一度伝えたい意味と存在…

「え？ スタンプラリー!？」
原点となった、ある人のダメ出し

2017年、ある日の午後…。岩手県南広域振興局から助言を求められ、東京から岩手県庁の庁舎に向かった村尾隆介氏。本業はビジネス書作家ですが、印税を岩手の被災地に寄付したことから震災後に県との縁を深め、希望郷いわて文化大使に就任しています。大抵のことは前向きな向氏。が、この日の県南広域振興局の案には「うへん」。『若手県南のマラソン大会をつないでスタンプラリー化。地元野菜を景品として配る』というアイデアに、「それだけでは若手の価値はあがらない」とキツパリ。そして、ニヤリ。「僕ならば、こうします」…



9つのキーワードで企画を読み解く! いわて県南レジェンドランナーズとは?

- POINT 1** 各地のマラソン大会をまとめてシリーズ化
岩手県南部で開催されている各市町のマラソン大会をリストアップし、スゴロク化
- POINT 2** 1年間を通じて出場数&完走数を競う
スゴロク化(シリーズ化)された幾つもの大会に年間とれだけ出場&完走できるかが勝負
- POINT 3** 出れば出るほど“レジェンド級”
このシリーズの名を(いわて県南レジェンドランナーズ)に、登録→挑戦→達成で誰もが伝説!
- POINT 4** デザインの統一感 黒・白・黄色の世界観
マラソン大会の会場でひと際目を引くテントやウェア類、常にシリーズデザインを重視
- POINT 5** 登録ランナーへ熱狂と一体感を提供
本シリーズの登録ランナーを事務局が熱烈応援。自然と登録者同士も応援し合う仲に!
- POINT 6** 完走した回数で唯一無二の景品が
一定の年間完走回数のクリアで買える景品の数々はランナー心をくすぐるアイテムのみで
- POINT 7** リピーター続出 県南が盛りあがる
岩手県外からも本シリーズへの登録ランナー多数! 朝晩も夜食も同時に盛りあがる設計
- POINT 8** 各市町の大会に参加者を増やす
本シリーズにリストアップされている各市町のマラソン大会の参加者増に貢献することが大事
- POINT 9** 登録ランナーには年間通じた健康維持を
年間通じて“常にマラソン大会を完走するための健康維持”が登録ランナーには必要!

こんな背景や話し合いから始まった(いわて県南レジェンドランナーズ)。5年間の熱狂をまとめたのが本冊子です。上記のキーワードを照らし合わせながら楽しんでいただけたらいいかもしれません。ENJOY!

数字と文字でふりかえる
〈いわて県南レジェンドランナーズ〉

黒・白・黄

ブランディングのために
徹底して固定した
本マラソンシリーズの色彩

25

岩手県外からの
登録ランナー
の居住都道府県数



12

台湾の大会に参加した
レジェラン登録者

3,588

5シーズンの累計
レジェラン登録ランナー数

シーズン終了時に
ゴッドランナーが
誕生する確率

平均 5%

約 9割

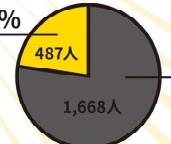
2020年シーズンにコロナで中止となった
マラソン大会の代替企画として行った
記録会@北上陸上競技場(トラック)で、
自己ベストを出した参加者の率

55

5年間でリリースされた、
いわて県南レジェンドランナーズの
ロゴが入ったオリジナルグッズの数

22.6%

女性



参加者の男女比

77.4%
男性



100%

レースプロデューサーである村尾隆介氏が
盛りあげのために岩手県南
および台湾で行われた
リアルな大会の会場に足を運んだ率

このシリーズに関わった
スタッフとボランティアの数

50人以上

県外からの参加も多数だった県南レジェラン。
年に何度も岩手県南部を大会のたびに訪れ
「食べた」「泊まった」「見てまわった」をしてくださったはず。
あらためて事務局から、
ありがとうございましたとお伝えしたいです。

デビューイヤーから 登録ランナー数が1,263人に

色が統一されたグッズやアパレルに 「何？ 何？」とブースに人だかり

マフソン大会のスタート/ゴール地点に、飲食や案内のブースがあるのは普通。でも、それが「ブラックを基調とし、サン色にイエロー」なのは異質。同じ色で統一したウェアを着て立つスタッフも加わり、さながら雰囲気はロックフェスです。あえてロゴも英語のみであったことから「外資系のイベント？」と思った方もいるでしょう。初年度のロゴには「KEN NAN LEGEND RUNNERS 8」と数字の「8」が入っていました。



「年間どれだけの数の大会に出れるかやってみよう」と登録者続々



「色の徹底統一」が各会場で「何だろう？」を巻き起こしました

ロゴにある「8」の意味は！？ 分子 / 分母で分かりやすさを重視

ロゴの「8」は初年度の18年シーズンに含まれたマラソン大会の数。前出のブースのお披露目となった第1戦のイーハトーブ花巻ハーフマラソン(4月)から、最終戦の花巻マラソン大会「瀬古利彦杯」(10月)まで計8戦をスゴロク化し、「このうちあなたは何戦出場・完走できますか？ 挑戦しますか？」と、ブースに足を止めたランナーたちにスタッフが問いました。市民ランナーたちの反応は「面白そう！」。登録用紙にペン走らす人でブースは大賑わいでした。



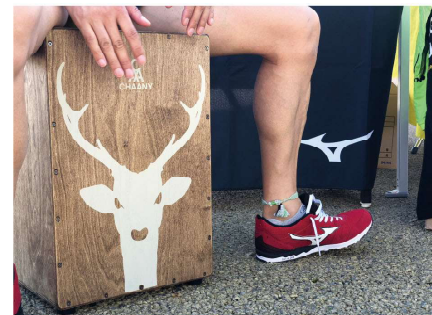
登録ランナーを登録ランナーが応援するスタイルが皆のお気に入り

シリコンバンドが“仲間”の証 みんなが身につけるアイテムに

登録者に配られたのがシリコン製のプレスレット。その後、どの大会でも、みんなが腕をあげ、それを見せ、同じ目標を持った“仲間”に挨拶・応援をするという一体感が自然と生まれました。シーズン終了後、8戦中6戦以上完走したランナーに「ゴッドランナー」の称号と、本人のお名前が入ったTシャツが贈られました。これが「どうつくったの？」と大好評。...と同時に「来年は自分も」と、2シーズン目への期待値が高まりました。



ゴッドランナーへの贈呈Tシャツに“ご本人のお名前”という驚き



D.Jブースやカホン(打楽器)等の音出しツールでランナーを鼓舞



レジェラン登録ランナー同士と一緒に写真を撮る文化も自然発生



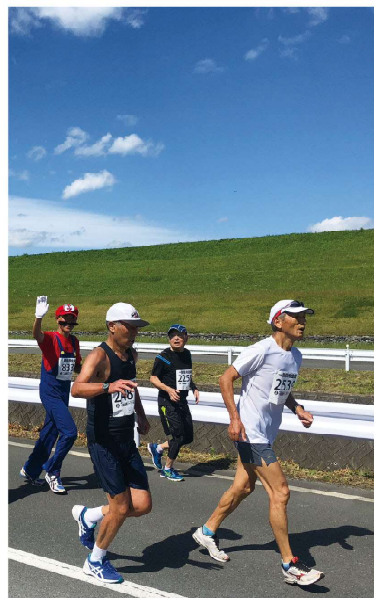
18年だけのヘアアイテム・アンクレット...を女性たちは上手に髪に



完走後には皆レジェランブースに再集結。フォトスポットで撮影!



スタート時にはスタッフが沿道に出向いて登録ランナーの応援を



「レジェンド～」の声をかけられるのは嬉しいと多くの感想が



コロナ前は登録ランナー同士のハイタッチも沿道で盛んに!



レジェランは応援側になっても楽しいです! みんな延々沿道に!



多くの登録ランナーをクールな白黒写真をよりブースで紹介



完走後には自身の写真に「小さな★のステッカー」を貼付します



「写真の写真を撮る」という現象も多々(笑)。それほどクール



自身の写真の「小さな★のステッカーの数」が完走したレースの数



カッコいい各登録ランナーの写真にご家族・ご友人も興奮気味

IWATE KEN-NAN LEGEND RUNNERS 8
8 Races / Southern Iwate / 365 Days

SEASON 2018 概要	
シリーズ内大会数	8大会
ゴッドランナー	8大会以上の出場・完走
レジェンドランナー	6大会以上の出場・完走
スーパーランナー	4大会以上の出場・完走
シーズン登録ランナー数	1,263名
ゴッドランナー取得者	35名



シリーズ内の大会数が増え ますます研ぎ澄まされたイベントに

台湾と岩手のフレンドシップ！ シリーズ中に台湾の大会も加わる

2シーズン目となった19年。この年のロゴの「10」が示すよう、前年より2大会増となりました。そのひとつには、なんと台湾のマラソン大会！レースプロデューサーの村尾隆介氏が「震災後にお世話になった感謝を、今こそソニンング通じてしていこう」と、台湾でも人気のマラソン大会に「東南レジェラン出場枠」を設けたのです。飛行機に乗って台湾の封鎖された高速道路を走り抜けたメンバーは12名でした（含・スタッフ）。



レジェランに含まれる大会のひとつに台湾のものを加える試み



前シーズンのゴッドランナーたちは鼻高々でTシャツを着用！?

グッズ類が充実 ひとつのコミュニティに成長

2シーズン目を象徴する出来事は、レジェンドランナーズのウェアやグッズを身につけている人たちが、会場で実にくさ見かけようになったこと。無料でもらえるバッジやシリコンバンドはもちろん、前シーズンの栄光の証である「ゴッドランナーTシャツ」を着て肩で風切る面々、そして市販のオリジナルディバッグで行き帰りするメンバー等々…。それらがIDのように機能して、登録者同士は次々お友だちを増やしていったのです。



アイコンとなったシリコンバンド。さらに互いの応援が過熱化

おもてなしが成熟 サービスでも大いに喜ばれる

「暑くなりはじめ～涼しくなったね」の間に行われるのがレジェンドランナーズ。19年シーズンの暑い時期には水ステッカー方式で肌に貼付する「ロゴ」が登場。霧吹き等を使ってスタッフが希望者の上腕などに貼ってあげるサービスが喜ばれました。またスタート/ゴール地点ではレジェランスタッフが登録ランナーをフラッグで応援するスタイルも定着。「がんばれ、レジェンド～!」の大きな声が、絶え間なく聞こえてきました。



台湾の大会に岩手から参加してくださった多くのランナーに感謝!



スタッフが貼付のおもてなし。新登場の水ステッカー型タトゥー



「レジェンドランナーズ」がライフスタイルを彩るブランドに

SEASON 2019 – THE SECOND SEASON



このシーズンからレジェンドランナーズを支えるスポンサー企業も



レジェランは1シーズン集中して大会に出続ける自分との勝負!



元々は知らない人同士!? シリーズを通じて全国にお友だちの輪



世代も性別も関係ないのがレジェンドランナーズのいいところ!

KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS 10

10 Races / Southern Iwate + Taiwan / 365 Days

SEASON 2019 概要

シリーズ内大会数	10大会
ゴッドランナー	8大会以上の出場・完走
レジェンドランナー	6大会以上の出場・完走
スーパーランナー	4大会以上の出場・完走
シーズン登録ランナー数	1,270名
ゴッドランナー取得者	88名



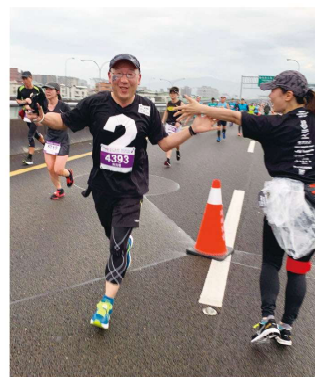
「市民ランナーをプロアスリートのように」がプロデュースの軸



登録ランナーたちの生活が、どんどんランニングが中心のものに



仮装ランナーたちもレジェンドランナーズ登録者に数多くいます



大会のコース上で見られるシーン。互いに励まし合うカルチャー



事後にイベントで普段とは違った親睦を深める機会もありました



台湾も走った19年。この後のコロナなんて誰も想像しておらず...



未知との遭遇… コロナ初期と3年目のシリーズ

延期&中止が続くシーズン リモートの企画で熱狂を維持

6大会をシリーズ化したことで始まったレジェンドランナーズでしたが、3年目には「12大会をマルっとシリーズ化」するところまで拡大...のはずでした。が、この頃はまだまだ未知のものだったコロナにより、シリーズに含まれていた若手県南各地のマラソン大会が次々に延期や中止に。レジェン事務局では「12の大会は、もはや無理かも。でも、12のイベントをオンライン含めてやろう!」と、RUN企画を次々打ち出しました。



ステイホーム期間なので「なわとび」からオンライン企画を開始



陸上トラックでの5千メートル記録会は自己新続出で皆ハッピー!

ステイホーム系の企画から 競技場貸し切ったの記録会まで

レジェンドランナーズの登録者に向けたマラソン大会に代わる企画の数々には、家の前のできる「なわとび」から始まり、「近所でのロング走」「自分が住むエリアの名所RUN」などがありました。「やりました!」の証拠写真を事務局に送れば、それで「1大会の完走とします」という具合でシーズンが進み、ハイライトは秋に行った北上の競技場を貸し切ったのレジェン登録者による5千メートルの記録会。自己ベスト続出でした。



オンライン企画は「やりました」の写真を事務局に送付するルール



マラソン大会の代わりに 一関に集まって「プロギング」

スウェーデン語の「プログ (捨つ)」と「ジョギング」で成る造語(プロギング)。この北欧生まれの新スポーツを、中止となったマラソン大会の代わりにレジェン企画として行ったのも、この2020シーズンでした。一関市に集結したのは、およそ50名。5キロコースと、10キロコースに分かれて、ゴミ袋片手にゆるくジョグ。たくさんのメディアが、この様子を報じてくれました。参加賞はオリジナルトイレットペーパー (笑)。



20年9月には久しぶりにリアルで再会。一関市でゴミ拾いジョグ



リアル再会を楽しみに各々がいろいろなゴミ拾いグッズを持ち寄り



TV・新聞とメディアの注目度も高かったプロギングのイベント



持って走るゴミ袋もオリジナル化。写真を撮る“機会”をいっぱい



参加賞はゴミにならないオリジナルのトイレットペーパーを用意



ボランティア感謝状も参加者各人に。プラスチック製ではなく紙製

SEASON 2020 概要

シリーズ内大会数	12 大会
ゴッドランナー	9大会以上の出場・完走
レジェンドランナー	7大会以上の出場・完走
スーパーランナー	4大会以上の出場・完走
シーズン登録ランナー数	676 名
ゴッドランナー取得者	31 名

12 Races / Southern Iwate + Taiwan / 365 Days

続くコロナ禍でのシリーズ… 大会出場数ではなくポイント制に

このシーズンのロゴに「17」 17大会ではなく17ポイント!?

「8」「10」「12」とロゴの末尾の数字が推移していったレジェンドランナーズ。コロナで規模は縮小傾向なのに、なぜ21年シーズンのロゴに「17」? それまでの数字はシリーズ内に含まれる大会数の表れでしたが、21年シーズンもコロナ禍で大会が前年同様に延期・中止が多くなることを事務局は見越し、シリーズ日体をポイント制に、「17ポイントを獲得したらGODランナーの称号と賞品を」という形式に変更をしました。



コロナなので、このGODランナーのTシャツは受注生産&購入制



数少ないリアル大会開催時には、いつも以上に応援もバワフルに

競争から観光に ゆっくり走る系の企画をいっぱい

このシーズンは、事務局から発表されるチャレンジ(ランニング系のお題)に対し、レジェラン登録ランナーがSNSに投稿する形で「お題クリア!」と応える仕組み。難易度に合わせて、「〇ポイント贈呈」という具合で進み、「年間合計17ポイント以上を目指そう」を合言葉としました。コロナ禍でも制限付きでリアル開催といった大会もあり、その際にレジェランのブースをお手伝いしてくれたボランティアにもポイントが贈られました。



各大会の主催者に感謝。コロナ禍で運営に工夫が求められました

グルメRUNや紅葉RUN プロギングも継続で

前シーズン同様、スライホーム系のラン企画を中心に、より県南地域の観光や地元紹介の要素を加味。事務局からのお題には「紅葉を見に行く走り」と、そこでのきれいな写真を」という紅葉RUNや、「走っている途中で地元の美味しいモノの写真と共にグルメRUN」といったものがありました。自分が地元でよく走るホームコースを写真で紹介する「ホームラン」や、そのエリアをゴミ拾いしながら走る「ホームラン」も人気の企画でした。



前シーズンに続きオンライン企画もミックス。観光地を巡る系など



オンライン企画は要「行った証拠写真」。そのレベルもぐんぐん↑



前年に引き続きプロギングも。ただ各人が各地で独自に行う恰好で

IWATE
KEN-NAN
LEGEND
RUNNERS
SEASON 4 / 2021 / 17 POINTS → GOD

SEASON 2021 概要

シリーズ内大会数	4大会
ゴッドランナー	17point以上
レジェンドランナー	14point以上
スーパーランナー	10point以上
シーズン登録ランナー数	379名
ゴッドランナー取得者	16名



各登録ランナーが jog 中に美味しいものを紹介するグルメラン



レジェンドランナーズ終了宣言 ファイナルシーズンの名で開催

5年間愛されたシリーズの終焉 ひとつひとつの大会に全力

レジェンドランナーズ終了が発表され、惜しまれる声の大きさと同じくらい「最後でみんなで盛りあがろう!」という言葉も聞かれた5シーズン目。口には「ファイナルシーズン」と刻みました。コロナ以前のようにはいきませんが、制限付きながら大会もリアルで開催されるので、各登録ランナーのSNS等からも期待が開幕前から感じることができ、事務局としても「ひとつひとつの大会を大切に」と例年以上に気合が入りました。



「これで最後だねえ」と思い出をシェアする場面がいたるところで



このように5シーズン分のシリコンバンド着用のランナーが多数

毎回の大会がファッションショー 過去のウェアのお披露目が文化に

ファイナルシーズンで見受けられたのは今まで以上に登録ランナー同士がブース前に集まり写真を撮り合うというシーン。また、毎回の大会で「過去に手に入れたレジェンドランナーズのウェアの数々を、各ランナーがさながらファッションショーのように着こなし、そして披露する姿。「これ〇〇年のときのですね?」「それ欲しかったなあ」など、マニアックな会話も、レジェンドならではの、ひとつのコミュニティが出来上がりました。



最終年に多かったのが各々のレジェンドファッション自慢&権威

レジェラン自体の完走... 感謝と唯一無二のコミュニティ

スポーツ業界や地域おこし関係者から「こんなに成功している“シリーズ”はない」と、お褒めの言葉を多くいただくレジェンドランナーズ。事務局としては、この企画に熱くなってくださった参加ランナーのおひとりおひとりに心からの感謝をお伝えしたいです。岩手県南部にいっぱい来てくださって、ありがとうございました。信じられないほどの素晴らしいランニングコミュニティを築りなしてくださって、ありがとうございました。



レジェランの最終シーズンの各大会を思い切り楽しむ姿が印象的



幾つか種類あるフォトスポットの中でもウイング型は美しかった。



缶バッジもバラエティ豊か。レジェランバッグの肩の国旗も好評。



レースプロデューサーが喜んだのがレジェラン通じた夫婦の誕生!

2022

SEASON 2022 – THE FINAL SEASON



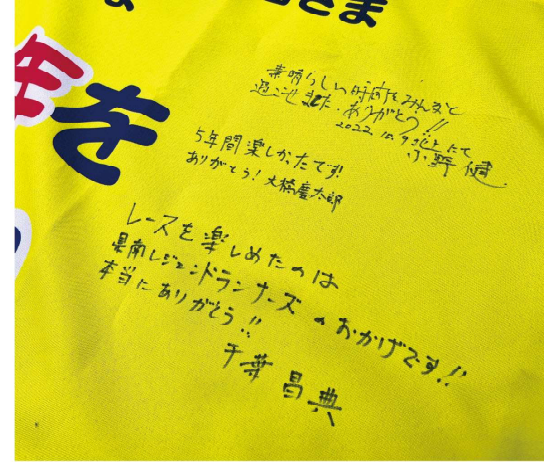
「仲間ができた」と多くの登録ランナーたちが口にしてくれます



最後のシーズンは特に「一緒に写真を撮る」が多かった年でした



過去のレジェラン関連アイテムが多数見られた最終年の各会場



嬉しいことに色々なところにレジェランへの感謝のメッセージが



SEASON 2022 概要

シリーズ内大会数	7大会
ゴッドランナー	8大会以上の出場・完走
レジェンドランナー	6大会以上の出場・完走
シーズン登録ランナー数 (過去シーズン含む)	2155名
ゴッドランナー取得者	35名



登録ランナーたちが用意してくれた感謝のバナーが最終戦に登場!



過去のアイテムを互いに自慢するように持ち寄った最終シーズン



異動になった事務局スタッフたちも一般参加するのがレジェラン!



登録ランナーをゴールで迎えるのも、これで最後。美しいひととき



過去の限定アイテムであるタトゥーステッカーを最終年に使う人も



みんな笑顔で「また会おう」「また何か一緒に」とお別れました



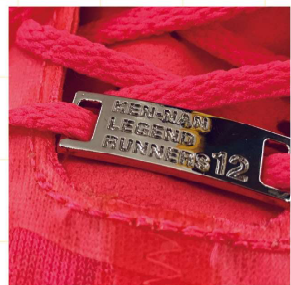
オリジナルグッズがいっぱい！ レジェンドを彩った黒のグッズ

景品・市販品・非売品...
コレクターも多数生まれました

個人個人の名前がプリントされた、世界でひとつの“GODランナーTシャツ”を頂上に、様々なグッズが誕生した、この5年間。すべて載せられないほどの多さですが、ここでは中でも愛されたもの、また「そんなのあったね～」といわれるようなものをシェアします。また売り物のみならず、走る際に着れる無料のレンタルウェアがあったことも記しておきます。帰りにブースに戻してくれたら洗濯要らずという仕組みでした。



レジェランファッションで走りたいたいのためにレンタルウェアが



レースプロデューサーが好きなのは、このシューレースチャーム



シリコンバンドには常に「次は何色なんだろう？」という憶測が



みんながプライドを持って背負ってくれるバッグ類は何種が存在



腕につける以外にもシリコンバンドの使い方は皆クリエイティブ



18年シーズンだけのレアアイテム！足首に巻くアンクレット



オリジナルイレットペーパーはゴミ拾いジョグのときの参加賞



県南レジェンドランナーズのオリジナルのシューレースは当然クロ



毎年異なる色で発売されたバッグに付けるタグ。選手専用の文言が



多くの登録ランナーが着用していたランニングキャップはミズノ製



発表が楽しみにされたスタッフシャツやゴッドランナーTシャツ



数字・アルファベットには意味が、赤/青カラーのシャツは台湾用

MESSAGES FROM THE CHALLENGERS

感謝や感動、感想に今後…
みんなの声をまとめました



私のような
ファミリーランナーにとって
とても励みになります。

久しぶりにマラソン大会の会場
に来ました。家族の思い出が
たくさんある場にまた果れて
うれしいです。

広い岩手県の魅力を
改めて実感するような
貴重な機会になりました。

1年にいくつものレースに
参加したのは20年ぶり
です。

大会参加でのモチベーションが
アップし、マラソンが趣味になる
きっかけになりました。



なんとか完走しました。
いい大会ですね。



3年ぶりのレース
楽し〜。

コロナ禍の中、
運動をする
モチベーションが
高まりました。



どの大会も心に残る大会
でした。岩手がますます
好きになりました。

秋田の県南からこれまで
ありがとう!
THANK YOU 県南レジェンド

仲間がいるからこそ走れる、
走れるきっかけをくれたレジェ
ランにありがとう。



岩手に行く機会が
格段に増えました。

これがあるから
大会に出ようと思う
「目標」にもなるし、
健康維持に役立っています。

大会の雰囲気
好きなので、
早く元に戻りますように。



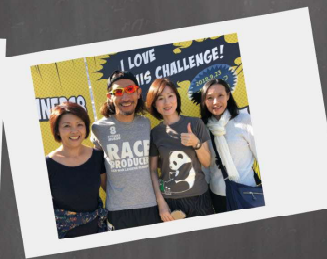
レジェランに参加することにより、
初めて参加した大会がありました。
その大会の良さを知ることができて
うれしいです。

レジェンドのメンバーとすれ違つくと、
「レジェンドさん!」と声を掛け
合うこともあり元気になるよ。

THANKS FOR YOUR CHALLENGE!
THANKS FOR YOUR INVOLVEMENT!

コロナで大会中止が続き
ましたが、出されたお題
のおかげで楽しくチャレン
ジできました。

こんな中でランナーのために大会
準備、設営ありがとうございました。
走って元気チャージできました。



ランニングだけでなく、泳いだり、
自転車に乗りたりにしてみたいです。

企画を通してたくさんの方々と親しく
なれたことが本当に幸せです。



コロナ禍で大変でしたが、
また大会が開催されて、
盛り上がりは良いと思っています。



FROM THE STAFF MEMBERS

レジェンドランナーズへの想い 今と昔のスタッフより

ランニング界の歴史に残る仕事 共に残した仲間のコメント

これが仕事でいいの!?

1年目。本当に自由で、次々に企画が生まれ、仲間が増え、これが仕事でいいの? と思ってしまう楽しい時間でした。「私も走ってみたいです。エントリーしましょう!」と誘うための大会への挑戦は、ずっと私の宝物です。

AKIKO OGASAWARA

Just Did It.

台湾との交流など、イケイケの2018、19シーズン。コロナでレースが中止、いろいろな企画で盛り上げた2020、21、22シーズン。レースプロデューサーと歴代スタッフの熱いスピリットがあってこそこの「IWATE KEN-NAN LEGEND RUNNERS」

KAZUSHI SUZUKI



怒涛のオンライン企画!

また黒南に行きたいと思ってもらえる企画を目指して、初のオンライン企画や主催レースを実施。レースも再開されてきたので、レジェランを思い出しながら、また黒南で走っていただけたら嬉しいです!

KEITA ABE

開幕戦から熱狂!

何人エントリーしてくれるだろうか...? と期待と不安を抱えながら向かった2018シーズン開幕戦花巻。ブースを準備しているとランナーがどんどん集まり、レース後もエントリー待ちの行列が! 「これは絶対盛り上がる!」と初日から確信しました!!

JUNKO NAKATSUKUE

ファイナル、感動の再会...?

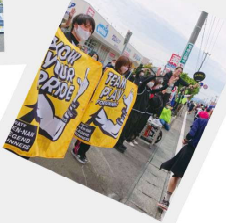
レースが再開されてきて、ひと安心。コロナ禍から担当だったので、レジェンドのみならずとは、はじめまじっていただけ、勝手に再会できた気持ちでした。あたたかい声をたくさんいただき、感動でいっぱいでした。

LISA SUZUKI

人生を変えた仕事!

走るたびにRUN仲間が増え、走ることで価値する風景があり。大会で会うたびに笑顔になれるレジェラン仲間。黒南レジェンドランナーズは、私のライフスタイルブランドです! ありがとうございます!

KATSUE SHINOH



THANK YOU — OUR SPONSORS

シリーズを支えてくださった スポンサー企業のご紹介

一緒に走ってくださった スポンサー企業さまに感謝を!

オフィシャルスポンサー



ミズノ(株)東北支社様(宮城県)

オフィシャルサポーター・サプライヤー



(株)アジテック 様(北上市)

小野社会保険労務士事務所

小野社会保険労務士事務所 様(奥州市)



(株)北洲 様(北上市)



トヨタ自動車東日本(株)岩手工場 様(金ケ崎町)



高源精麦(株) 様(花巻市)



フチコロンブすごいカエル屋フロッギー 様(東京都)



(株)ヴィクトリアネクサスカンパニー 様(盛岡市)



花巻温泉(株) 様(花巻市)



第一学院高等学校 様(盛岡市)

吉田 強 様(個人)

吉田 強 様(北上市)



Thank you for supporting the series! You all are the legend sponsors!

TIPS FROM THE RACE PRODUCER

岩手とランニング業界に残りたい 愛されるイベントの作り方

レースプロデューサー 村尾隆介のブランディング

希望郷いわて文化大使で、いわて県南レジェンドランナーズのレースプロデューサーでもある僕は、今後も岩手のスポーツツーリズムが日本中で評判になることを願ってやみません。もしもイベントとしてのレジェランを成功させるならば、その演出ノウハウを解説し、仕事として残すことも大事。キーワード+写真で、その一部をシェアします。他がやっていることを「やる」は戦略にあらず。基本路線は「他がやっていないことをやる」です。



KNOW-HOW 1

参加者を かっこよく見せることが“仕事”

参加者満足度は賞品や参加賞だけではありません。あらゆる（お金をかけない）アイデアで、参加者自身が輝いて見えるように・特別な存在に見えるように全力を尽くすことが大事。



KNOW-HOW 2

スタッフが “いい写真を残す”に全力投球

シャッター押すのを頼まれたときも、空き時間に記録写真を撮るときも、とにかくスタッフが“いい写真を残す”ことに全力を。その写真の力が、そのイベントを広げていきます。



KNOW-HOW 3

“ブラック”であるのは 悪いことじゃない

日本では不吉なイメージもあって、イベントやユニフォームの色としての黒を避ける傾向にあります。いやいや、迷ったら黒！ それだけでグッズもウェアもクールになります。



KNOW-HOW 4

ロゴを入れただけ のウェアにしないこと

イベントのウェアは「ロゴ入れておしまい」になりがち。違うんです。1シャツは媒体であり、メッセージなんです。主役を英文のメッセージにするだけでも見栄えは変わります。



KNOW-HOW 5

ライフスタイルの中に 組み込んでもらう

その場・その時だけグッズを身につけてもらうではダメ。普段の生活でもグッズ類を使ってもらえるイベントブランドに育てないと、それを「ライフスタイルブランド」といいます。



KNOW-HOW 6

タテや表彰状の類の文は 英語のみでOK

タテを贈る機会も多いレジェラン。そのデザインは全部英文。しかも紙のみならずシンプルな額装付きで贈ります。：家や職場で飾ってもらえます。賞状でなくインテリアという発想。



他にもノウハウは多々。これらのノウハウを行政関係者・スポーツ業界関係者にトークショーで披露したこともありました。

村尾隆介 | Ryusuke Murao

希望郷いわて文化大使、いわて県南レジェンドランナーズのレースプロデューサー。普段はブランド戦略の専門家であり、その著書数は国内外で25冊。岩手の有名企業にも多数関わる。自身も世界を転戦するシリアスランナーで、ランニング人口を増やすことに一所懸命。

「もう一度」といっても多分無理。
そのくらいの感謝・感動・ケミストリー。

参加者も運営側も関わるひとりひとりが
心からくいわて県南レジェンドランナーズを大切に思い、
ライフスタイルの一部としてくれた、この5年間。

その熱い想いやフレンドシップ、魂こもった仕事術に、
レースプロデューサーとして大きな声で感謝を伝えたいです。

RUNイベントだけに、みんな全力で走った期間でした。

レジェンドランナーズだけに、このイベント自体も地域・業界で
今後も長い間ずっと伝説として記憶されることと思います。

「この一体感を、もう一度！」といわれても、
ちょっと無理かもと思うほどのケミストリー。

レジェンドの一部となってくださった大勢の方々、
そしてスポンサー企業みなさま、
本当にありがとうございました。

僕もまた次なるアイデアで、
岩手のために走りたいと思います。

またお会いしましょう。



いわて県南レジェンドランナーズ
レースプロデューサー / 希望郷いわて文化大使

村尾隆介

Ryusuke Murao

